

兵庫県で得られたイボイボアナアキゾウムシの採集記録 およびその寄生者

阪上 洸多

イボイボアナアキゾウムシ *Paramecops granulatus* Morimoto, 1982 はホオノキ *Magnolia obovata* (モクレン科) の果実を食べるアナアキゾウムシ亜科の一種である (小島 1993)。本種は、北海道、本州、九州から局所的に得られており (鈴木 2024)、生活史が明らかになるまでは稀な種であったようである (小島 1993)。

筆者は、2019年7月27日にハチ北高原 (兵庫県美方郡香美町大笹) にて、ホオノキの落下果実を採集したところ、同年8月16日に本種成虫1個体の羽化を確認した (図1)。本記録は兵庫県では初記録となる。また、ホオノキの実を割り、本種幼虫を観察したところ、多数の寄生蜂幼虫が本種幼虫1個体に付着していることが確認された。羽化日は不明だが、後日、*Bracon* 属の一種 (コマユバチ科) 1♂5♀の羽化が確認された (図2)。イボイボアナアキゾウムシの寄生者もこれまで記録されていなかったと思われる。イボイボアナアキゾウムシおよび *Bracon* 属の一種の標本は兵庫県立人と自然の博物館にて保管される。



図1. イボイボアナアキゾウムシ成虫. 体長 11.1 mm.



図2. *Bracon* 属の一種の雌成虫. 体長 3.4 mm.

Bracon 属全体は、鱗翅目、鞘翅目、双翅目、膜翅目など非常に広い寄主範囲を示すが、種としては寄主範囲が狭い種が多いようである (Shaw and Huddleston 1991)。イボイボアナアキゾウムシに寄生していた *Bracon* 属の一種が他にどのような昆虫に寄生するか興味をもたれる。

末筆ながら、ホオノキの落下果実採集時には屋宜禎央博士、岩下幸平氏、松井悠樹博士にご助力いただいた。標本の写真の撮影には徳平拓朗氏、寄生蜂の同定には前藤薫博士にご協力いただいた。厚くお礼申し上げます。

○引用文献

- 小島弘昭, 1993. イボイボアナアキゾウムシに関する知見. 甲虫ニュース, 103:7.
- Shaw MR., Huddleston T., 1991. Classification and Biology of Braconid Wasps (Hymenoptera: Braconidae). Handbooks of the Identification of British Insects, 7. Royal Entomological Society of London, London.
- 鈴木茂, 2024. 日本列島の甲虫全種目録 (2024年). <https://japanesebeetles.jimdofree.com/> (2024年5月28日アクセス)

(Kota SAKAGAMI 兵庫県立人と自然の博物館)